

教材教具名	視覚教材	分類	授業
		授業名	音楽 (小学部)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に出てくる登場人物や物などを絵で提示することで、視覚的にも理解する。 ・音楽や、パネルを見て、季節を感じる。 ・音楽を通して、食べ物に興味を持つ。 		

教材教具の概要



<使用方法>

- ・ピアノの生演奏の音楽に合わせて、歌いながら絵人形を動かし子どもに見せます。
- ・CDの音楽に合わせて、様々な野菜のめくりをみせます。声を出したり、手遊びをしたりします。

<材料>

- ・不織布で作った絵人形、野菜をラミネートしたイラスト

<工夫点>

- ・パネルの絵人形は原色の色鮮やかな色を塗り、太いペンで縁取りすることで、子どもの視覚にパツと入り、はっきりとした絵になるように作成しました。
- ・手遊びをしながら、カードが次々と見せられるように、めくりカードを作成しました。

<使ってみてよかったところ、効果等>

- ・子どもが集中して視覚教材を見るようになってきました。また、絵人形に注目するようになりました。
- ・言葉をしゃべることができる子どもは、めくりの名詞を言いながら手遊びするようになりました。
- ・給食時に出た野菜も、音楽を話題にして、興味が持てるようになりました。

教材教具名	落書きアート	分類	授業
		授業名	美術 (高等部)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・乱雑な線から形を見出す。 ・複数の形からストーリーを展開する。 		

教材教具の概要



<使用方法>

- ①画用紙に黒ペンで線を描く。(なるべくいい加減に描く)
- ②他の人が描いた用紙と自分の用紙を交換する。
- ③他の人が描いた線の中にどんな形が見えるか想像して、足りないパーツを追加する。(例えば、人の顔に見える線に鼻や口を描き足す。)
- ④可能なら、一つの画用紙の中にテーマ(クリスマス、水族館、不思議な国等)をもって取り組む。

<材料>

- ・画用紙
- ・ペン(各色)

<工夫点>

- ・他人の描いた線を使うことで、「デッサン力のあるきちんとした絵を描けない。だから絵を描かない。」という気持ちの生徒も描くことができた。

<使ってみてよかったところ、効果等>

- ・『何がどのように見える』というのは人それぞれで、それも個性。』という話をすることができた。
- ・作品(他の人が描いた線)との対話ができる。

令和3年度 教材教具展

教材教具名	模擬 PASMO	分類	授業
		授業名	生活 (小学部)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習などの行事に向けて、改札口をスムーズに通過する練習をする。 ・IC カードを使い、改札を通る流れを理解する。 		

教材教具の概要



<使用方法>

・カードでタッチし、音が鳴ったら通過します。

<材料>

・横須賀工業高校電気科の生徒さんたちのご厚意で作成していただきました。

<工夫点>

・実際の自動改札に近い感覚を持てるよう、光を遮れば音が出るようになっています。

<使ってみてよかったところ、効果等>

・最初は注目できなかった児童が、タッチの仕方を理解し、模擬改札をひとりで通ることができるようになりました。

令和3年度 教材教具展

教材教具名	電車の模擬改札	分類	授業
		授業名	社会 (中学部)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習などの行事に向けて、改札口をスムーズに通過する練習をする。 ・ICカードを使い、改札を通る流れを理解する。 		

教材教具の概要



<使用方法>

- ・ICカードのカード入れ(切符入れ)を首から下げておきます。
- ・改札を通る際に決められた場所にカードを差し出し少し押さえます。
- ・「ピッ」と音がしたのを確認してから通過します。

<材料>

- ・段ボール、画用紙、テープ類、写真(拡大コピーしたもの)、VOCA

<工夫点>

- ・スモールマックを入れたことで、「ピッ」という音が出るようにしました。
- ・音が鳴るまでは通過できないことを、子どもが確認することができました。
- ・切符で改札を通ることにも対応する形にしました。

<使ってみてよかったところ、効果等>

- ・音が出るようにカードをしっかりあてる操作を行って、改札を通る練習が繰り返しできました。
- ・校外学習では、学習の成果をほぼ全員が発揮することができ、スムーズに改札を通過することができました。

教材教具名	校外学習の事前学習	分類	授業
		授業名	社会生活 (高等部)
ねらい	・校外学習の概要を“楽しく”知る。		

教材教具の概要



<使用方法>

・iPad をテレビにつなぎ、keynote を操作します。

<材料>

・iPad(Keynote のアプリでスライドを作成)

<工夫点>

・子どもが参加できる場面をつくったり、「次はどうなるのだろう」「何が出るかな」と、わくわくできたりするような内容・展開にしました。

<使ってみてよかったところ、効果等>

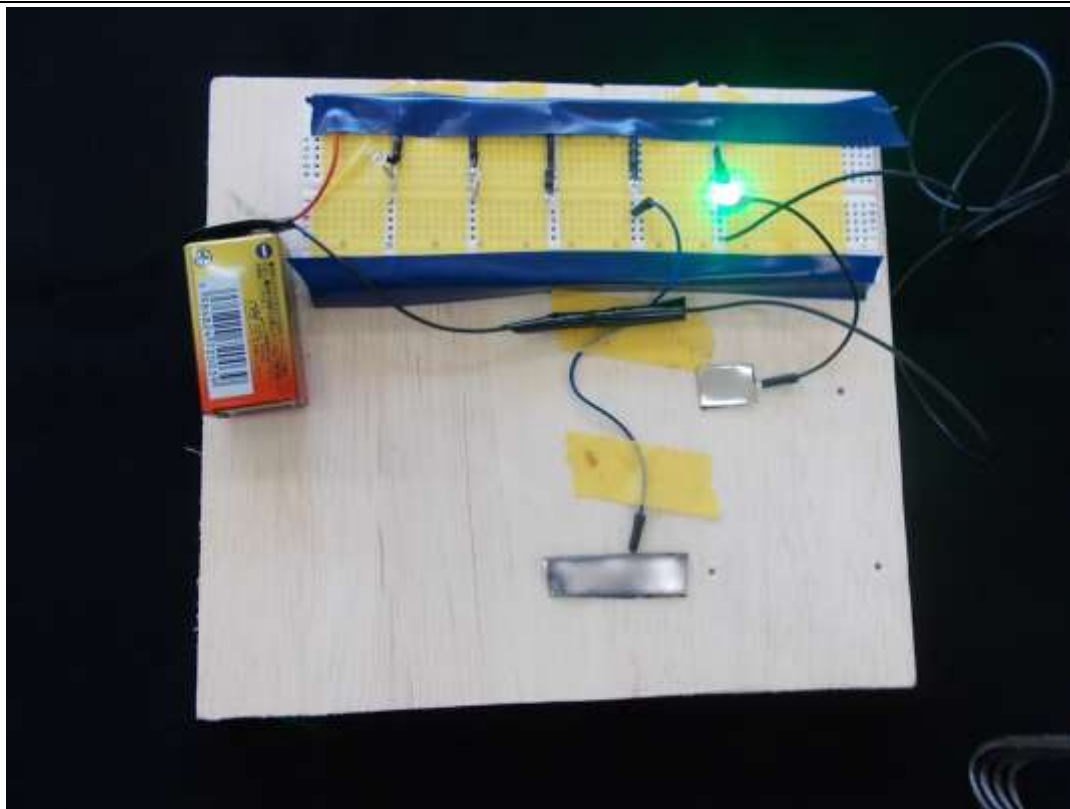
・ねらい通り、「お！」「わ～！」と、興味を持って画面を見る生徒が多かったです。

・見ている側は、「次は何が出る？」と思う仕組みだが、展開をパターンのすることで授業をスムーズに行うことができました。

・内容を変えれば、他の題材でも活用できます。

教材教具名	電気をつけよう	分類	授業
		授業名	理科
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・手元を見て操作することができる。 ・電気と線のつながりを理解することができる。 ・簡単な回路の仕組みを知る。 		

教材教具の概要



<使用方法>

- ・9v角電池をソケットにつける。
- ・黒い線の先を LED のついている並びの穴にさす。(or 板についている金属板につける)

<材料>

- ・角電池、電池スナップ、LED(抵抗付き)、金属(産廃から抜き取り)、ジャンパーワイヤー等(電気を通すコード)、ブレッドボード

<工夫点>

- ・ブレッドボードは穴が多いので、正しい穴を選択できるように使わない穴をテープで隠す。

<使ってみてよかったところ、効果等>

- ・点灯することで作業ができたか自分で確認でき、子どもも喜んでいる様子がみられた。(ただし、LED は長時間直視するのはだめなので半透明のカバー等をつけるとなおよい)
- ・金属板等によつて的を大きくすることができるので、児童生徒の手指の動きに合わせた設定が可能になる。

教材教具名	長さや重さの単位変換	分類	授業
		授業名	数学 (高等部)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の計測を通して、単位に対する具体的なイメージを持つ。 ・単位変換用の枠を使用して何度も計算に取り組み、自然と計算イメージが持てる。 		

教材教具の概要

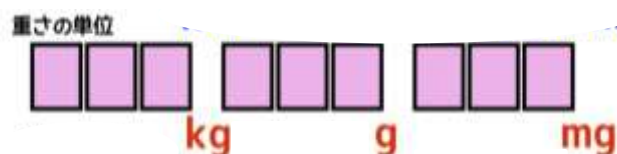
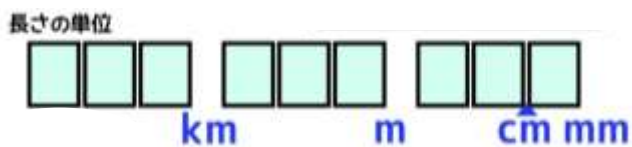


<使用方法>

・下記の枠に数字を入れると単位変換ができることを説明する。

例:「2mは何cm」という問いでは、まず枠に2mと入れ、その後に0をcmまで記入すると、答え200cmが導き出せます。

「2kgは何g」という問いでは、枠に2kgと入れ、その後に0をgまで記入すると、答え2000gが導き出せます。



<材料>

・紙

<工夫点>

・数学に苦手意識がある子どもにも「これならできる」と思えるような教材を考えました。

<使ってみてよかったところ、効果等>

・単位変換に対して苦手意識が強く、「1m=100cm=1000mm」「1kg=1000g」等の法則を数字のみで理解して活用することは難しい子どもに対して使用しました。上記の枠を使用したところ数字を入れるだけなので取り組みやすく、どんな応用問題や文章問題も自分から枠を使用して取り組みました。何度も計算に取り組んだ結果、枠がなくても思い出すことで問題に取り組んだり、自分で枠をプリントに記入して取り組むようになり、単位変換に対する苦手意識をなくすことができました。

令和3年度 教材教具展

教材教具名	フライングディスク 授業教材 一式	分類	授業
		授業名	体育 (中学部)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめて取り組む競技に興味をもって取り組み、新しい競技を経験する。 ・フライングディスクを通して、普段とは違う動きを経験したり、友だちと協力して取り組む。 		

教材教具の概要



<使用方法>

【導入期】 ①競技PV → ②競技紹介映像 → ③振り返りにPPT

【展開期】 アキュラシー(ウォールクラッシュ)、ディスタンス(フープゴール、ピザ窯ゴール)

【成熟期】 ディスクゴルフ(ピザ窯ゴール)

<材料>

- ・ウォールクラッシュ:段ボール、レンガ柄プリント、鈴
- ・フープゴール:フラフープ、ハードル、鈴、ゴールの的
- ・ピザ窯ゴール:段ボール、レンガ柄プリント、いろいろな味のピザ(ラミネート有)
- ・足形マット(屋内・屋外):ケンステップ、足形、滑り止めマット(屋内)

<工夫点>

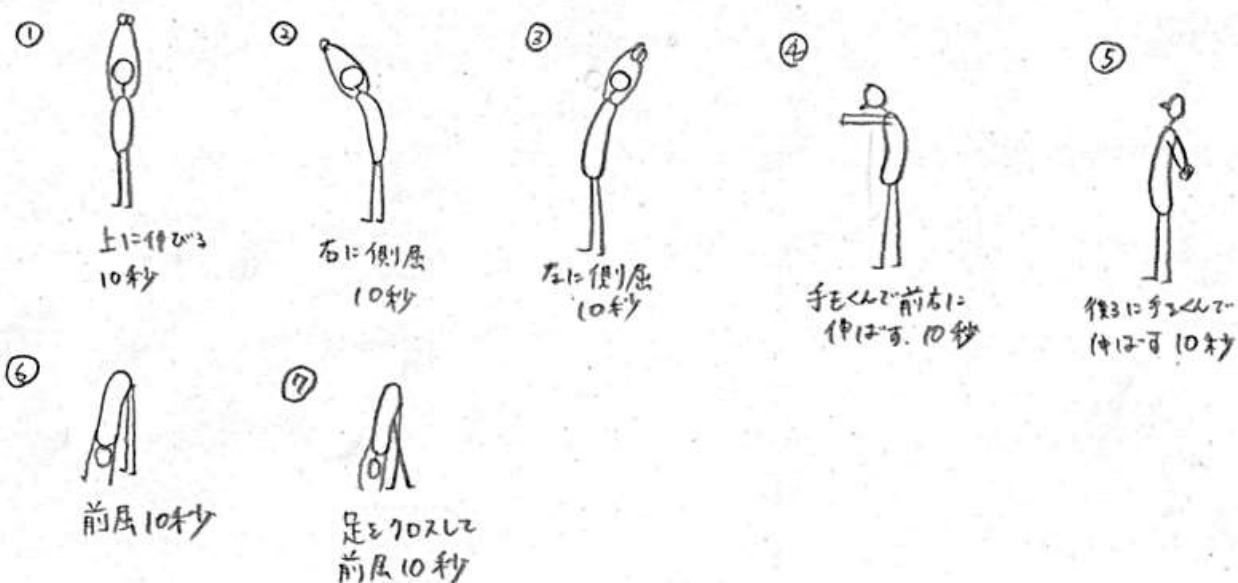
- ・はじめて取り組む子どもがほとんどだったため、まずは興味をもってもらうため、導入部分で興味を持ちやすい映像やPVを交え、「簡単な競技」という意識を持たせた。
- ・「楽しくディスクを投げる」をテーマに、正式種目であるアキュラシーやディスタンスを意識した授業展開と教材を作成した。
- ・子どもの実態に応じて、正しい投げ方ができるような補助教材を準備した。

<使ってみてよかったところ、効果等>

- ・映像を使うことにより、子どもが集中して取り組むことができた。
- ・正しい投げ方を習得できるよう、いくつかのポイントを絞って取り組むことで、段階的にスキルレベルを上げることができた。場合により、補助教材を利用した。
- ・いろいろな的や目標物を用意し、鈴を取り付けることで“倒した”、“当たった”を実感できるようにした。

教材教具名	セルフストレッチ	分類	授業
		授業名	体力づくり・体育・職業・校内実習 ・現場実習（高等部）
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自分でできる簡単なストレッチの方法を習得する。 自ら疲れた時に自主的にストレッチができるようにする。 自分で『どこが疲れたか』『どのようなストレッチをすると疲れが取れるか』について理解できるようにする。 		

教材教具の概要



<使用方法>

- 各授業の最後に映像のストレッチを行い、ストレッチの方法を覚える。
- 『職業』の授業でどこが疲れたかを確認し、教員が子どもに投げかけながらその疲れの部分をはぐすストレッチはどのようなものが効果的かを自分達で見つけられるようにしていきます。
- 現場実習等の職業体験の時に一人で休み時間にストレッチをやるように伝えます。

<材料>

- なし

<工夫点>

- 簡単な動作にし、子どもが自分で行えるようにした。
- 毎回の授業で行うことで、定着を図った。
- 自分の身体について気がつけるよう言葉かけを行った。

<使ってみてよかったところ、効果等>

- 「地味な動きだが、意外にやってみてよかった」と自主的に現場実習等でも行う子どももいた。